

令和5年度事業報告

1. 概要

我が国は、人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)がすでに29%に達し世界に類を見ない超高齢社会を迎えており、少子高齢化の進行に伴い、将来に必要な労働力人口が減少することが懸念されています。

高齢化、少子化が進む中、日本経済の活力を維持していくためには、働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を活かし、年齢にかかわらず活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することが不可欠とされており、就業を通じて高齢者の福祉増進に資するシルバー人材センター事業の重要性と地域社会の期待はますます大きくなっております。

発生から4年経った新型コロナウイルスの感染症は、ようやく落ち着きをみせ、社会経済活動もようやく回復途上にあります。

当センターでも、契約額、就業率ともゆるやかに回復しているものの、完全にコロナ前の水準を取り戻したとは言い難い状況が続いています。

令和5年度の定時総会は、新しくオープンしました永守重信市民会館ホールで87名の会員の皆様に参加いただき開催いたしました。各種セミナーや講習会もほぼ計画どおり実施することができました。

このような状況の下、当センターは、地域社会の一員として、可能な限り就業開拓活動及び普及啓発活動に取り組み、高齢者の活躍の場を提供するとともに、デジタル社会に対応した取り組みやボランティアなど様々な社会活動に参加することで、生涯現役社会を目指し、各事業を進めてまいりました。

令和5年度の事業実績においては、「契約件数」および「契約金額」は公共事業、民間事業とも前年度を下回り、単年度収支については428万円の赤字となりました。

また、会員数においては、年度末で453名と前年度に比べ18名の増となり、令和5年度目標数値を達成いたしました。

以下、令和5年度事業の概要について報告します。

2. 主な事業内容

(1) 就業機会の提供

令和5年度の就業件数は、延2,700件で前年度に比べて12件の減となりました。

また、就業実人員では354人の会員の方々が就業されました。

(2) 会員の増強と普及啓発活動

広く市民、事業所等にセンターの活動や事業内容を周知するため、下記の活動を実施しました。

- ① 11月26日に、「ボランティア清掃」として阪急西向日駅周辺の清掃を行い、シルバー事業の普及啓発活動を実施しました。
- ② 「生活支援講習会」「スマホ教室」「パソコン講習会」の終了後、参加者を対象に「入会説明会」を開催し、新規会員の獲得に努めました。
- ③ 入会案内のチラシを市内に全戸配布するとともに、「60歳以上の方の仕事の説明会」を2月～3月に計4回開催しました。
- ④ 入会説明会では、入会用DVDを活用しセンターの普及啓発に努めました。
- ⑤ 1月から3月にかけて「お友達紹介キャンペーン」など各種キャンペーンの実施により新規会員の獲得を図りました。
- ⑥ 「広報むこう」への広告掲載により、センターの周知及び入会促進に努めました。

(3) 安全・適正就業の推進

- ① 安全に対する意識を高めるため、「安全標語」を募集するとともに、応募作品を事務所に掲示し、より一層の注意喚起を図りました。
また、京都府安全適正就業大会で、当センターの会員が安全標語の最優秀賞を受賞しました。
- ② 安全委員が就業現場をパトロールし、事故の未然防止に努めました。
- ③ 安全・適正就業委員会において、安全就業DVDを視聴し、安全就業について意見交換を行いました。
- ④ 除草作業において、刈払機を安全に取り扱うための知識や操作方法の習得を目的として、12月16日に京都府農業機械士協議会から講師を招き「刈払機の安全講習会」を実施、会員9名が受講しました。
- ⑤ 熱中症予防対策として、冷却タオルの配布や作業時間の短縮、複数人作業の徹底を図りました。
- ⑥ 適正で公平な就業を推進するため、一人でも多くの会員に就業の機会を

提供できるよう未就業会員の解消に努めました。

- ⑦ 作業中や就業途上の事故が増加していることから、会報誌に事故の状況等を具体的に掲載することで、会員への注意喚起を図り、事故の未然防止に努めました。
- ⑧ 刈払機など機械・器具の整備点検を定期的に行い、機械のトラブルを低減させることで、安全で快適な作業の確保に努めました。
- ⑨ 11月に府連合会の安全就業パトロールに参加し、府下南部のセンターと安全就業について意見交換を行いました。
- ⑩ 小学校児童の登下校の見守り業務従事者を対象として、「交通指導業務講習会」を向日町警察署の協力で実施しました。
- ⑪ 保険事故から見た「安全対策セミナー」を実施し、会員19名が参加しました。
- ⑫ 向日消防署で「普通救命講習会」を開催し、職員・会員12名が参加し、AEDの使い方や心臓マッサージの仕方を学びました。

(4) 講習会、研修会の実施

- ① 高齢者の雇用就業機会の確保を促進することを目的に、京都府シルバー人材センター連合会と連携して、10月16日、17日の2日間「生活支援講習会」を開催し市民8名が参加しました。
- ② 差別のない明るい社会の実現を目指し、京都テルサで開催された「人権研修」に会員・役職員24名が参加しました。
- ③ 高齢者がデジタル技術から取り残されない取り組みの一つとして、市民及び会員を対象に「シニアのためのスマホ教室」と「シニアのためのパソコン教室」を2回開催、合わせて79名が受講しました。
- ④ 会員及び職員を対象に、健康状態の把握と運動意識の向上を目指し、2回にわたり「健康講座」を開催し20名が参加しました。

(5) 独自事業の取り組み

- ① 平成29年度より市の委託を受け、高齢者の日常生活を支援する「地域支え合いヘルプサービス事業」に引き続き取り組みました。
- ② 12月に向日市社会福祉協議会と協力し、生活支援を必要とする高齢者世帯のニーズへの対応として、「歳末おかたづけ応援隊事業」を実施し、19件の利用がありました。

(6) 組織体制の充実

- ① 全国シルバー人材センター事業協会、近畿シルバー人材センター連絡協議

会、京都府シルバー人材センター連合会が実施する研修・講習会にオンラインでの受講を含め積極的に参加しました。

- ② 会員への業務連絡など、スマホ等を利用したショートメッセージ(SMS)送信サービスを活用しました。
- ③ 会員とのコミュニケーションツールである「Smile to Smile」を導入し、スマホによる配分金明細書の確認など、デジタル環境の整備に取り組みました。
- ④ 山城地域拠点シルバー人材センター連絡会において、月1回職員研修会を実施し、他センターとの意見交換など、職員の資質向上に努めました。
- ⑤ 除草、竹やぶの手入れなど、活発な職群班活動に努めました。また、シルバーの会報や就業募集チラシの配布など地域班の活用により就業開拓、就業支援に努めました。